

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部

リハビリテーション学科

理学療法学専攻

名 前 齋藤 信夫

作成日 2023年9月27日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

[現在担当している科目]：リハビリテーション概論（必修・1年）、理学療法管理（必修・3年）、理学療法学総合演習Ⅶ（必修・4年）、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ（必修・4年）、評価学実習（必修・3年）、見学実習（必修・2年）

[過去に担当した科目]：運動学（必修・1年）、物理療法学及び演習（必修・2年）、運動療法学及び実習（必修・2年）、リスク管理論（必修・3年）、呼吸器系理学療法学（必修・3年）、理学療法学演習Ⅰ～Ⅴ（必修・1～3年）

理学療法に関する全般的な科目指導を行ってきた。現在は、科長としてリハビリテーション学科のとりまとめ的な業務も行っている。

[委員会活動]：図書館運営委員会（委員長）、入試委員会（副委員長）、就職対策ワーキンググループ（委員長）倫理審査委員会、教務委員会（副委員長）

2. 理念（教育に対する考え方）

理学療法はリハビリテーションの中でも大変に重要な身体運動機能の回復及び改善をめざすものである。保健・医療・福祉に貢献することができて、やりがいのある仕事である。

医療職を養成する学校での勉強は、質・量ともに多く、難しく大変なこともあるが、若い時の苦労や努力は、今後の人生に関しても役立つものと考えている。

学生と共に努力し切磋琢磨し、新しい荒波にもしなやかに乗りこなす対応ができるように、共に成長していきたい。自分自身で考え行動できるよう、独立自尊を目指す。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーに「理学療法を科学的な根拠に基づいて基本的な専門知識と技能を、保健・医療・福祉・介護・教育などの分野において汎用できること」とある。専門職としての知識の習得は、当然に重要ですが、その上で、人間としての広い視野に立った視点で社会に貢献できるような人材育成を目指して努力している。具体的方策も模索、研究中である。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業、特に講義においては、臨床経験のない学生にとってイメージしやすい説明ができるように心がけている。

小テストの実施より、単元や授業の内容のまとめができて、よい、という意見が多くあり、この小テストを継続している。そのほか、意見やその内容なども比較検討して、改善すべき授業展開などを、日々、研究・研修している。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

社会人、医療人としての常識を弁えた上での成長を期待して分かりやすい授業を展開することを目指す。

期末に行われる学生の授業評価アンケートにおいて、平均 4.0 以上を目指す。

* 表紙を含め、全体として、3 ～10 ページ程度とします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)